



東北 復興日記

まだまだ

▶▶▶ 233



シナイモツゴ郷の

米つくり手の会

今野智恵さん

宮城県大崎市鹿島台で農業を営む夫の実家に入ってから、間もななく十年になります。家の周りは山

や田んぼ。仙台の市街地で生まれ育った私には静かすぎて、初めは怖くて夜も眠れませんでした。

街に慣れてくると、ボランティアをしたり、小学校でPTA会長を務めたりするようになりまして。そんなころ、「シナイモツゴ

地元では年に一度、池から水を抜く池干しをします。水を抜いた後、小さな魚を食べる外来種のブラックバスを駆除し、写真、シナイモツゴや生態系を守ります。当初は、ため池の水がお風呂のように抜けるのにも驚きましたが、小さな魚のためにここまでするのと思いました。

この取り組みは小学校も巻き込みます。小学生がシナイモツゴを育て、池干しで危険がなくなつた、ため池に放流するのです。おかげでこの地域ではシナイモツゴを知らない子供はいないほど。そして、私はシナイモツゴのすむき

世界農業遺産登録へ注力

郷の米つくり手の会」の会長から「会を手伝ってほしい」と声をかけられました。

シナイモツゴとは体長五〜六センチ程の小さな魚で、大崎市の品井沼で発見されたことから、そう名付けられました。絶滅危惧種で市の天然記念物に指定されています。

れいなため池の水を使った、この地域でしか採れない米を販売しています。

大崎市と周辺四町は地域の農業の世界農業遺産登録に向けて力を注いでいます。私は世界農業遺産登録の現地調査でプレゼンターをしたりする中で、地元の農業に目を向けてもらおうと必死で取り組む人たちの活動を目の当たりにして、人の手でできることはまだあるということを教わりました。

世界農業遺産になって注目されれば、この地域の米などに興味を持ってもらえるだけでなく、後継者不足に悩む地元の農業の担い手たちのやる気につながっていくのではないかと期待しています。



※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。